



Title	(資料紹介)京都工芸繊維大学付属図書館
Author(s)	濱野, 節朗
Citation	デザイン理論. 1984, 23, p. 108-110
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/52684">https://doi.org/10.18910/52684</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## (資料紹介)

# 京都工芸繊維大学附属図書館

京都工芸繊維大学附属図書館には、近年、外国図書大型コレクションとして購入された貴重な資料が数点ある。特にグラフィックデザインに関するもので、いずれも19世紀末から20世紀初頭にかけての稀覯本である。これらの資料は現在わが国では入手する事が極めて困難であると思われる。この誌上での紹介を機会に、さらに広い関係分野での活用が望まれる。

### 資料Ⅰ 昭和56年度購入

#### 「THE POSTER」

『ポスター』誌は1898年6月から1901年5月までイギリスで発行されたポスター専門の月刊誌である。6巻33冊からなる図版の豊富に入った美本であるが、最後の4巻は『アート・コレクター』誌と合併して出されていて、形も大型になっている。本誌の編集は自国のイギリスが中心になっていることはいうまでもないが、創刊号でのミュシャや、その後の号で数多く取りあげられているシェレ、ロートレックなどの他国のポスター作家が積極的に紹介されている。収録されているのはポスターにとどまらず、絵はがき、カード、ブックデザインなど多岐にわたり、グラフィックの総合的な視野に立った編者の見識には、今なお称賛して余りあるものがある。その他、評論やインタビュー、展覧会やコンペティションの情報も、多彩な執筆陣によって重量感



ヤン・トーロップ

「イン・デン・ネーヴェル」1898年

デルフト市研究紀要 表紙

のあるものになっている。専門の研究者にとっては、最も貴重と思われるポスター関係の文献目録も、単行本、パンフレット、雑誌、新聞などから入念に抽出されたもので、得がたい資料となっている。

## 資料Ⅱ 昭和57度購入

### 「MAINDRON, ERNEST-Les Affiches illustrées」

E・メンドロン編著『絵入りポスター』は1886年から1897年にかけて刊行された、近代ポスターの初期における貴重な文献である。

第1巻はポスター前史、第2巻は1890年代のフランスのポスターを中心に、第3巻はフランス以外のヨーロッパ諸国のポスターを扱ったもので、以上の3巻で構成されている。

石版で刷られた図版は、保存状態が極めて良好であったのかほとんど変色していない。シエレ、グラッセ、ロートレック、ミュシャなどの1890年代のフランスのポスター作家をはじめ、クレイン、ピアズリー、マッキントッシュなどのイギリスのポスター作家の作品も多く収録されている。その他ベルギー、オランダのアル・ヌーヴォー期のポスター作家、ドイツのユーゲントシュティル期のポスター作家、オーストリアの分離派のポスター作家など、近代ポスター史上重要なものも多く見うけられる。図版以外の解説も、ポーエン・ラ・フォルグ、マイヤー・グレーフェらの執筆者によって、世紀末芸術の動向がつつさに紹介されている。興味深いことに、この執筆陣には日本人画商、林忠正が加わっていて日本論を展開している。これは当時のジャポニズムの風潮を反映したものとして注目にあたいする。

資料Ⅰ、資料Ⅱともに京都工芸繊維大学美術工芸資料館が所蔵する一群の世紀末ポスターのコレクションを裏付けるものとして、現在、研究に活用されている。

1. Vol.1 Les Affiches illustrées, 1886
2. Vol.2 Les Affiches illustrées, 1886-1895, 1896
3. Vol.3 Les Affiches Étrangères, 1897

## 資料Ⅲ 昭和58年度購入

### 「JAN TOOROP」のブックデザイン

ヤン・トーロップは、オランダの世紀末から20世紀初頭にかけて活躍した象徴派の画家である。

彼が生育したジャワの東洋的な影響の強い特異な画風は、当時の象徴主義の人々に大きな衝撃を与えた。彼は画家であったと同時にグラフィックデザイナーとしてポスター、装丁、イラストレーションに数多くの仕事を残している。今回本学が購入した一群の資料は、ブック

デザインを中心とした珍しいものばかりである。わが国では、世紀末芸術あるいはアール・ヌーヴォーに関する研究は、一般的に特定の芸術家を対象にしたものが多い。ヤン・トーロップの存在はそれらの中で極めて重要な位置を占めていたにもかかわらず、その作品、特にエディトリアルな分野に関するものはあまりよく知られていない。もともとわが国にこの種の文献ならびに資料は稀有で、このようなまとまったコレクションは世紀末のデザイン研究上待望久しかったものである。このコレクションの購入を機会に、アンリ・ヴァン・デ・ヴェルデ、ヤン・トーロップらのベルギー、オランダにおける象徴派やアール・ヌーヴォーの研究がいっそう深まることを期待したい。

1. テアトル・ルーヴルでの「救われたヴェニス」 1895年、ポスター
2. 「デ・アルベイト」 1901～2年、文芸美術雑誌
3. 水彩画展のためのパンフレット 1904年
4. 「パベル」 L・ゴウベルス 装丁
5. 「イン・デン・ネーヴェル」 1898年、デルフト市研究紀要 装丁
6. 「詩とソネット」 B・J・ユタ 1896年 装丁
7. 「詩集」 J・マエルラント 1894年 装丁
8. 「ニイメヒェン市公式教会堂案内」 1908年 装丁
9. 「エヒデウス・オン・デ・ヴレムデリンク」 W・G・ファン・ノウヒュイス 1899年 装丁
10. 「ヤン・トーロップ伝」 A・ブラシャエルト 1925年
11. 「ヴァン・ヌ・オン・ストラクス」 文芸美術雑誌 1893～4年

(濱野節朗)